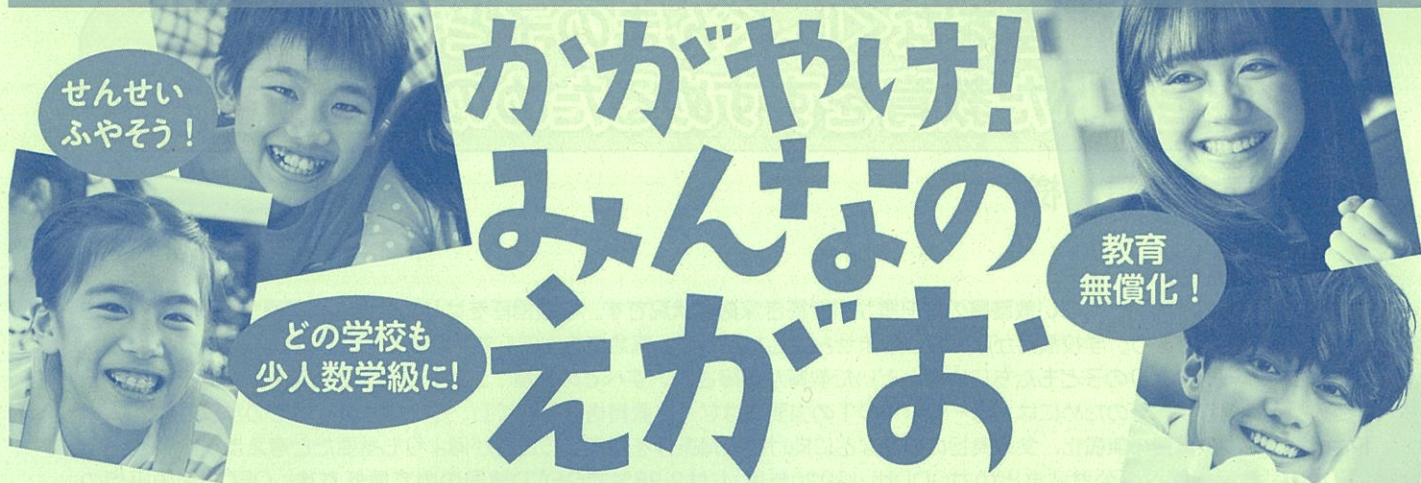


教育予算をふやしてどの子ども安心して楽しく学べる学校に



「教育に穴があく」深刻な事態が全国で 教職員の大幅増員を

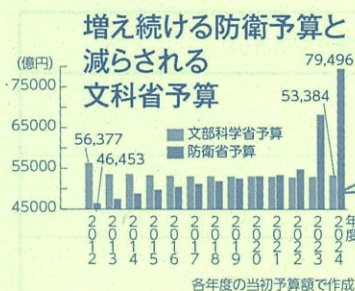
「新学期に担任の先生がいない」「休職した先生の代わりが見つからず、毎日自習」など、教職員の未配置は「教育に穴があく」深刻な事態です。この問題を解決するには、正規の教職員を非正規で置き換えてきた、この間の教職員配置のあり方を抜本的に見直す必要があります。正規教職員の採用を安定して増やせるよう、中断されたままの教職員定数改善計画の策定を求めます。

教員採用選考の志願者が減っています。専門性を生かしていきいきと働けるよう、教職員の勤務条件の改善は待たなしの課題です。子どもたちにゆきとどいた教育をすすめるためにも、教職員の長時間過密労働を解消するためにも、教職員の数を大幅に増やしてください。

教育予算をOECD諸国平均並みに!

日本の教育予算が国内総生産(GDP)に占める割合は、OECD諸国の中で最低レベルです。

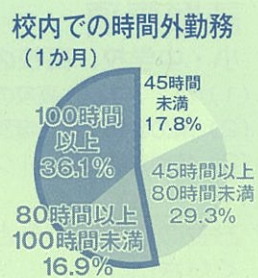
防衛予算を増やすよりも、教育予算をまずはOECD諸国平均までひき上げて、すべての子どもの「教育への権利」を保障してください。



長時間労働をなくすため、時間外手当を支払うしくみを!

教職員の時間外勤務の平均は1か月で92時間34分。厚生労働省の過労死ライン(月80時間)を大きく超えています。6割近くの教職員が、休憩時間を全く取れていません。

教職員が人間らしく働き、子どもたちの教育にゆとりをもってとりくむことができるように、時間外勤務の対価を支払うしくみをつくり、教職員の数を増やすことが重要です。



(全国の教職員2524人の2022年10月下旬の勤務実態から計算) (全教「教職員勤務実態調査2022」より)

声をあげれば変えられる

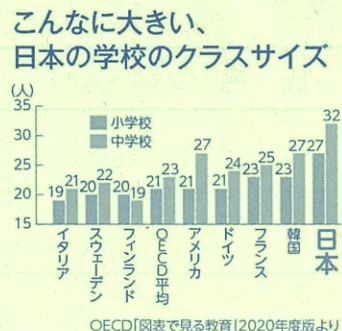
どの学校・学年でも、少人数学級と教育無償化をすすめよう

全国各地で声をあげ、その賛同を広げることで、小学校の35人学級が実現しました。教育費の保護者負担軽減を求め、学校給食無償化のとりくみも前進しています。

一人ひとりが大切にされる教育がすすめられるよう、どの学校、どの学年も少人数学級に!

お金の心配をしないでお金に通えるよう、教育の無償化を!

みんなの願いをあつめて、1つひとつ実現させ、みんなのえがおを増やしていきましょう!



OECD「図表で見る教育」2020年度版より

国や県の教育予算を増やして 教育費の父母負担を軽減しよう!

2024年度ゆきとどいた教育をすすめる会「教育全国署名」

子どもたちは、



手をかけて、愛情そそいで、 みんなで育てましょう!

集めようみんなの願い、届けよう国・県へ

- クラスの子どもたちと、もっとじっくり向き合いたい! ぜったい30人学級が必要・特別支援学級は6人以下に
- 国は他の先進国なみにもっと教育にお金をかけて!
- 保護者負担には限界がある。必要とするすべての高校生・大学生に対する返済不要の奨学金制度を
- 給食費は無料(公費負担)にして
- 卒業アルバムが買えない、修学旅行に行けない、そんな悲しい思いをさせないで
- お金の心配なく、近くの私立高校に進学したい
- 先生の未配置がおこらないようにしてほしい



- イジメのSOSを見逃してはいけない! やっぱり少人数学級
- 定時制高校を無くさないで!
- 「高校授業料無償化」を復活させて

国会あて

国の責任による「20人学級」を展望した少人数学級の前進、教職員定数増、教育無償化、教育条件の改善を!

2024年度すべての子どもたちにゆきとどいた教育を求める全国署名

衆議院議長 様
参議院議長 様

I 請願趣旨

長引く物価高騰で貧困と格差はますます広がり、子どもたちの成長・発達、心身に深刻な影響を与えています。OECD平均である20人程度の学級に比べ、学級規模は大きすぎます。高等教育における私費負担割合もOECD平均の倍以上です。子どもたちのいのちと健康を守り、学びを保障していくためには、教育の無償化実現や20人学級を展望した少人数学級のさらなる前進、教職員の増員、養護教諭や学校栄養職員・栄養教諭等の配置拡充等のゆきとどいた教育条件整備が必要です。

小・中学校、高校、特別支援学校で、教職員の未配置が起きています。学校現場では病気休暇や産前産後休暇、育児休業などの代替教職員が見つからない「教育に穴があく」状況が数か月続くなど、いっそう深刻です。新年度の4月に教職員が足りず、担任が配置できない学校は各地で出ています。教職員の負担軽減をすすめるとともに、正規の教職員を増員することが求められています。あわせて、私立高校等経常費助成補助を大幅増額し、私学でも専任の教職員を増員できる条件整備をすることが必要です。

高校や大学等での教育無償化を実現するためにも、高等学校等就学支援金制度の拡充、給付奨学金制度のさらなる拡充など、国際人権A規約13条2項「無償教育の漸進的導入」を具体化し、子どもたちが安心して学べる教育条件整備を前進させるべきです。また、保護者の教育費の負担を軽減することが重要です。給食無償化は、給食の安全性を保った上で実現できる予算確保が必要です。

日本の「公財政教育支出の対GDP比(2020年)」は2.98%とOECD諸国の中で最低です。これをOECD諸国平均4.28%まで引き上げれば、小・中学校、高校までさらなる少人数学級の前進、公立・私学ともに就学前から大学まで教育無償化など、ゆきとどいた教育を保障する教育条件整備をすすめることが可能となります。

憲法と、批准30年を迎えた子どもの権利条約が生きて、輝く学校づくりをすすめるために、国の責任ですべての子どもにゆきとどいた教育を実現する教育条件整備が行われるよう、以下、請願します。

II 請願項目

- 子どもたちのいのちと健康を守り、学ぶ権利を保障するため、教育予算をOECD諸国並みに計画的に増やしてください。
- 義務・高校標準法を改正し、国の責任で、中学校、高校での35人以下学級を早期に実現してください。小学校も含めて少人数学級をさらに前進させてください。自治体独自の少人数学級が維持でき、欠員が生じないよう、十分な教職員を確保してください。幼稚園や特別支援学級・学校の学級編制標準の引き下げをすすめてください。
- 有期雇用ではなく、正規・専任の教職員を増員してください。
- 教育費の保護者負担を軽減するとともに教育無償化をすすめてください。
 - 高校・大学等の学費無償化や高校生・大学生等への給付奨学金制度の拡充をすすめてください。
 - 私学経常費助成補助の増額と高等学校等就学支援金拡充で学費の公私間格差をなくしてください。
 - 給食無償化を実現し、安全安心な給食を提供できるよう、自治体への財政支援を国の責任ですすめてください。
- 公立・私学ともに安全安心な環境のもとで学ぶことができるよう、教育条件や施設の改善をすすめてください。
 - 特別支援学校の過大・過密解消のため、国による財政支援の拡充、学校新設や既存校へ「設置基準」適用をすすめてください。
 - 学校の耐震化・老朽化対策、洋式トイレやエアコンの普及、バリアフリー化をすすめてください。
- 能登半島地震や東日本大震災などの自然災害、東京電力福島第一原発事故の被害を受けた子どもを守り、学校と地域の要望を反映した復旧・復興を至急すすめてください。

氏名 (フルネームで)	住所 (〇〇県△△市□□町1丁目2-3 ← 番地までお書きください)
	群馬県
	群馬県
	群馬県
	群馬県
	群馬県

※名前(姓)や住所を「//」「同上」のように省略せずに記入してください ※上記個人情報は、国会へ提出する以外に使用しません

ゆきとどいた教育をすすめる会 〒102-0084東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館3F TEL:03-5211-0123

群馬県議会あて

教育格差をなくし、ぐんまの子どもたちにゆきとどいた教育をすすめるための 請願署名

群馬県議会議長 様

I 請願趣旨

群馬でも、欠員が補充されない教職員の未配置が引き続き深刻な状況です。学級担任をはじめ必要な教職員が配置されないことは学習権の侵害であり、学校教育が崩壊しかねません。したがって、緊急で抜本的な対策が求められます。

私たちは、一人ひとりの子どもたちにゆきとどいた教育が保障され、すべての児童・生徒が生き生きと楽しい学校生活を送ることを願っています。そのためには、画一的なICTの強要ではなく、教育格差をなくし、小・中・高すべての学級での30人以下学級実現や、教育費の無償化、父母負担の軽減などに向けた教育条件を整備することが何よりも重要だと考えます。

日本の「教育機関への公財政支出の対GDP比(2020年度)」は2.98%でOECD諸国の中で最低です。OECD諸国平均の4.28%程度まで引き上げれば、小・中・高校の30人以下学級の実現のみならず、一人ひとりにゆきとどいた教育を保障するための教育条件整備と、公立・私立ともに就学前から大学まで教育の無償化をすすめることが可能となります。

教育の機会均等を保障するため、国や行政が責任をもって教育条件整備をすすめることはきわめて重要なことです。群馬県としてもゆきとどいた教育を実現するため、教育予算の増額等、さらなる努力をお願いします。

子どもたちの笑顔が輝き、憲法と子どもの権利条約が生きる学校をつくるため、以下のことを請願します。

II 請願事項

- 小・中学校、高校の少人数学級の実現をすすめてください。
 - 小・中学校・高校のすべての学年で30人以下学級を実現するよう国に求めてください。
 - 県の教育予算を増額し、県独自の少人数学級をすすめてください。
 - 特別支援学級の1クラスの子どもの数を減らしてください。
- お金の心配なく子どもたちが安心して学べるよう、県の教育予算を増やし、保護者負担を軽減してください。
 - 義務教育費国庫負担金の負担率を3分の1から2分の1に戻すよう国に求めてください。
 - 高校授業料無償化を復活させるよう国に求めてください。
 - 私学助成を増額し、お金の心配なく私立高校に進学できるようにしてください。
 - 小・中学校、高校の教育活動に必要な教材費や学校納付金を無償にしてください。
 - 地産地消・安全安心な給食の提供と、給食の無償化を実現してください。
 - 地域の高校や定時制高校をなくさないで下さい。
- 子どもたちが豊かな環境のもとで学べるよう、教職員を増やし、教育条件や施設の改善をすすめてください。
 - 教職員の未配置がおこらないよう正規教職員を大幅に増やすなど、抜本的な対策を講じてください。
 - 学校の耐震化・老朽化対策、洋式トイレやエアコンの普及、バリアフリー化をすすめてください。

氏名 (フルネームで)	住所 (〇〇県△△市□□町1丁目2-3 ← 番地までお書きください)
	群馬県
	群馬県
	群馬県
	群馬県
	群馬県
	群馬県

※この署名簿は、個人情報保護法に基づき、署名提出の目的以外には使用しません。

国会あて(左)・県議会あて(右)両方に同じ名前を二重線で署名してください